

御霊舎のまつり

祖先のまつりは、神棚とは別に御霊舎で行います。これは仏式でいう仏壇にあたるもので、祖先の霊が鎮まる霊舎を納めるところです。

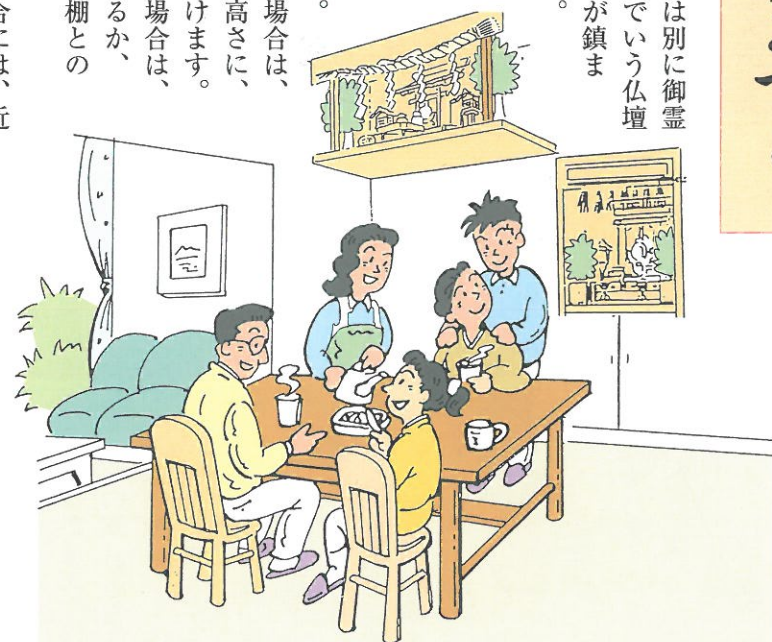
御霊舎には御櫃をすえ、霊璽を納めます。

御霊舎は、神棚とは別の場所に設けますが、間取りなどの関係で、神棚の下や隣に設けることもあります。

御霊舎を神棚の下に設ける場合は、神棚を大人が見上げる位の高さに、御霊舎は上半身の高さに設けます。

また、神棚の隣に設ける場合は、御霊舎の位置をやや低くするか、それができない場合は、神棚との座位を考えて並べます。

御霊舎をおまつりする場合には、近くの神社にお願いしてお祓いをしていただきます。



御霊舎に必要な祭器具等については、お近くの神社へお尋ね下さい。また、神具店でも求めることができます。

◆ 霊璽

霊璽は仏式の位牌にあたるもので、御霊代とも言われます。

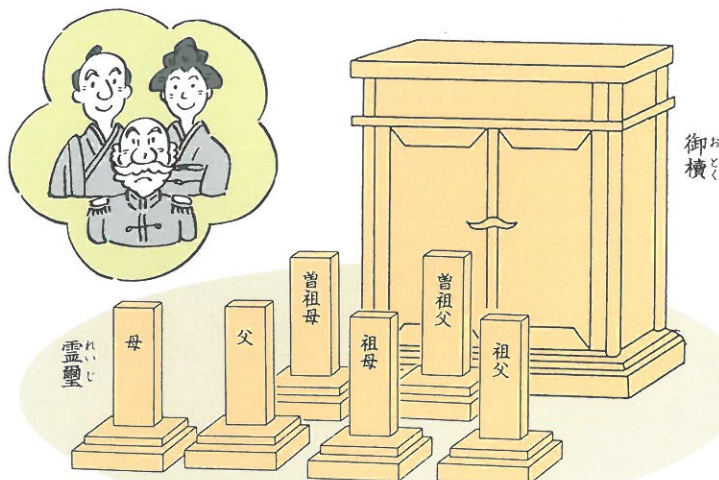
その形状は、木主、笏、鏡、幣串などがありますが、故人の遺志によっては、遺品などをあてる場合もあります。

霊璽の表面には霊号が、裏面には「何年何月何日帰幽享年何歳」などが墨書され、合祀祭までの間、仮御霊舎に安置されます。

神葬祭には、仏式の戒名にあたるものがあります。故人につける霊号は、もともととは、その徳をたたえる称名としての意味もありましたが、今日では生前の身分に関係なく、名前下に「命」、男は「大人」「彦」、女は「刀自」「姫」等をつけることが一般的です。

また、並べ方については、御霊舎の中に父母、祖父母、曾祖父母（もしくは高祖父母）までを並べてまつり、古くなった順で御櫃に納め、年祭の時に取り出すようにします。

なお、御霊舎が狭い場合には、片木型の霊璽を御櫃に重ねておまつりします。



御霊舎は祖先のおまつりを行う場所です。祖先の霊璽を納める御櫃は、神社の神座にあたるもので、宮中の御厨子所の御棚を起源としています。

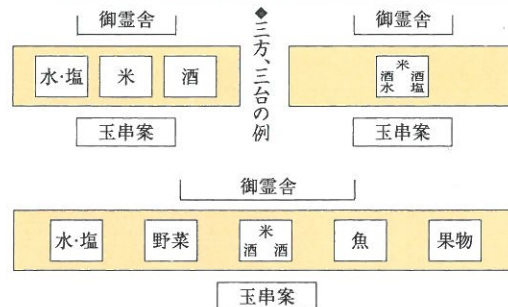
お供え物

神葬祭のお供え物は、一般的に米、酒、餅、魚、海菜、野菜、菓子、塩、水などの生饌と、調理された常饌です。

また、毎日のおまつりは神棚のおまつりと同じように、お米（ご飯）、お塩、お水をお供えします。季節の物や、故人の好物があれば併せてお供えしましょう。

◆ 三方、一台の例

◆ 三方、五台の例



年祭、命日には好物をお供えします。

参拝と神棚のおまつり

葬儀に関わる間は、故人のおまつりに専念し、神社参拝や神棚のおまつりを中断します。その期間は地方によって違いがありますが、五十日祭後の清祓を区切りとすることが多いようです。

年末年始、あるいはお宮参りや七五三等の人生儀礼と不幸が重なった場合には、清祓の後あらためて神社にお参りし、お神札を受けます。

